

移住者日記

No.8

飯舘村

佐藤 郁子 様



数年前、夫から飯舘村への移住を提案されました。夫の定年退職を機に田舎暮らしをしようと各地の移住候補地を見て回っている時でした。当時は夫の仕事の都合で宮城県に住んでいましたが、私は愛媛県出身で就職のために移り住んだ愛知県岡崎市で夫と出会い、仕事や子育てと、人生の大半を過ごしてきました。夫の故郷である飯舘村は自然豊かな村で馴染みもありましたが、そもそも私は岡崎市に帰るつもりで宮城県に引っ越してきたこともあり、田舎暮らしをするにしても、子どもたちや友人が暮らす愛知県界隈がいいなという気持ちがありました。避難指示が解除されたばかりの飯舘村は村の暮らしに関する情報が少なかったことや、愛知県から遠く離れた場所に移住することになるかもしれないと思うと、今まで積み重ねてきたものを手放すような感覚にもなり、不安や寂しさが込み上げてきました。言葉では言い表せない葛藤がありました。話し合いを続ける中で夫には、福島第一原子力発電所事故の影響を受けた飯舘村で楽しく暮らしていることをいろんな人に知ってほしいという思いがあることが分かりました。その気持ちを知り、「ダメだったら、岡崎に帰ればいい!」とおもいきって夫のチャレンジに付いていくことにしました。

2021年に夫の実家近くに家を建て、飯舘村での生活が始まりました。放射線のことは全く気にならなかったわけではありません。水はどうなのかな、空気はどうなのかなと一通り調べましたが、結局は避難指示が解除された場所です。移住すると決めたら、気にしていてもしょうがないと思いました。今も特に気にはしていませんが、村から支給された個人線量計を持っていたり、自分で作った農作物の放射能濃度の検査をしたりすることもあり、放射線のことは身近に感じています。

田舎暮らしは大方思っていた通りでしたが、いざ暮らしてみると想像していなかったことも多くありました。まずは猿とのたたかいです。猿は一生懸命作った農作物を根こそぎ食べてしまいます。畑を荒らす猿と1時間以上睨み合い、「私、こんな声が出るんだ!」と自分でもびっくりするような声で威嚇することもあります。また、自分専用の草刈り機を使いこなすようになりました。刈っても刈っても生えてくる草ともたたかいの日々です。さらに、今まで鳥には全く興味がなかったのですが、自宅から見える木にとまる野鳥が気になりだし、いつの間にか観察するようになりました。野鳥を見つけるとカメラに収めて、どんな鳥かインターネットで検索しています。今では夫婦共通の楽しみになりました。そして、昨年とてもうれしいことがありました。出産を控えた娘が飯舘村にやってきました。と言っても村に産科はないため、お隣の南相馬市で出産し、産前産後を雪の降る村で過ごしていました。私たち夫婦の移住や飯舘村の現状を理解してくれただけでなく、初めての出産を両親のもとで迎えたいと思ってくれた娘のおかげで、かわいい孫の誕生に立ち会うことができました。

移住後は移住サポートセンターの仕事を経て、今はパークゴルフ場に勤めています。二つの仕事を経験し、様々な角度から村の方々と関わりを持つことができています。移住者だけどUターン、Uターンだけど移住者、どちらの立場でも村の皆さんにやさしく迎え入れてもらい、居心地も良いです。今後は花やハーブ栽培に取り組みたいと考えています。夫はヤギを飼いたいようです。ヤギはかわいいですし、草刈りの強い味方になると思いますが、育てることができるのか…、どうなることや、これからも夫や村の皆さんと仲良く、のんびり暮らしていきたいと思っています。